

奉祝天皇陛下御即位

令和元年

成田

祇園祭

七月五日(金)・六日(土)・七日(日)

NARITA
GION
FESTIVAL



山車・屋台競演



JR成田駅前広場

御輿・警護の由来

成田山祇園会で担がれる御輿は、大日如来をご尊体とした成田山新勝寺の御輿です。昔は門前町7ヶ町で御輿番と警護番を年番制で担当し、町内の若者が担いでいました。しかし各町内とも年々御輿の担ぎ手が不足するようになり、現在では成田山の職員と有志が担ぐようになりました。

御輿の渡御する順路を、御輿に先立ち化粧をした警護の稚児一行が巡行します。熨斗目袴に花笠の揃いという華麗な出で立ちで、御輿の先導役を務め、これには翌年年番に当たる町内が担当します(本年の警護の巡行は5日・6日の2日間です)。



成田山祇園会の由来

成田山祇園会は、成田山新勝寺のご本尊「不動明王」の本地仏である奥之院大日如来の祭礼です。毎年7月7日・8日・9日の3日間にわたり執り行われます。

古くは大日如来のご尊像を捧持して各町内を渡御しましたが、今日では大日如来をご尊体とした御輿が渡御し、併せて成田山と9町内10台の山車や屋台が市内を巡行します。

成田山祇園会は享保6年(1721)には既に行われており、約300年の歴史があります。当初は、成田山で管理する湯殿山権現社を中心とした祭礼であり、氏子は往時33ヶ村にも及びましたが、時代の変遷とともに、本地仏である成田山奥之院御本尊大日如来の祭礼へと移り、現在に至っております。

現在でも初日の夜、御輿がJR成田駅中央口脇の権現社を御旅所として一泊し、翌朝には御輿と山車、屋台の全てが権現社に集合するもの、この

故事によるものです。御輿の渡御と山車・屋台の巡行は、7月初旬の金・土・日曜日に行われています。



見どころ

※丸数字①②③は地図を参照



- 5日(金):午後1時30分～
 - ① 成田山大本堂前
安全祈願、鏡開き、山車・屋台競演(総踊り)
- 6日(土):午前9時00分～
 - ② JR成田駅前広場
山車・屋台競演(総踊り)
- 7日(日):午後1時00分～
 - ③ 門前～薬師堂
山車・屋台総引き
 - ① 成田山大本堂前:午後4時30分～
御輿還御式、山車・屋台競演(総踊り)

※内容・時間は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

Event Information

Welcome to the Narita Gion Festival, the best event of the summer!
We'd love for you to join the festival and celebrate with us, the people of Narita City.

Schedule of Events

July 5th (Friday)

At 1:30 p.m., festival floats and a movable sacred shrine will be gathered in front of the main hall of the Narita-san Shinshoji Temple. First, we will pray together for the safety of everyone participating in this year's festival.

At 2:00 p.m., folk music and dancing will be performed on the colorful floats. Then the floats and movable shrine will begin parading through the streets of Narita. Stalls will begin selling traditional festival food along Omotesando Street and throughout the parade route.

July 6th (Saturday)

The parade of festival floats and the movable sacred shrine will begin at the JR Narita Station after a performance of folk music and dancing at 9:00 a.m. The parade can be seen as it progresses throughout the city.

July 7th (Sunday)

At 1:00 p.m., the exciting Sobiki Parade begins at the base of the temple. One by one, ten of this year's festival floats will rush up the steep slope. At 4:30 p.m. folk music and dancing will be performed on the floats. Finally, the floats will parade once again through the streets of Narita.

Highlights of the Festival

Make sure to watch the thrilling Sobiki Parade! This event will most certainly leave you with a wonderful lasting memory of your visit to Japan. To experience some of the best nighttime views of the festival, go to the Narita Kanko-kan (information center) or Yakushido (small temple), both of which are located along Omotesando Street.

田町の山車

令和元年度
当番町

若者連名称:田町東門会

下座連・お囃子方の名称:神崎芸座連

額の文字:光明(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)

人形の名称:素戔鳴尊

成田山新勝寺東方のお膝元にあり、江戸時代から「四番町」として長い伝統を誇る田町。威勢のいい山車の引き廻しで知られています。人形がせり上がる二層式の山車は前面に荘厳な唐破風の踊り屋台が付く伝統的な様式で、昭和53年から活躍する三代目です。人形は荒ぶれの神から善神へ転化したとされる「素戔鳴尊(すさのおのみこと)」で、右手に日輪、左手に巻子を持ち、繁栄と平穏をもたらします。



若者連組織について

山車の引き廻しの参加者は大別すると、役員、若者連、子供たちを含む一般参加者からなります。役員とは、いわゆる町内のだんな衆であり、そろいの染め抜きの浴衣にたっつけ袴、草履がけ、頭にはパナマ帽姿が一般的です。それぞれの町内には、祭典委員長と呼ばれるその年の祭りの責任者があり、祭礼全般の指揮を執ります。実際に山車を動かすのは、各町内で組織されている若者連です。若者頭を筆頭に、副頭、若者会計、連絡係、子供係など、町内によって多少の違いはあるものの若者頭の号令のもと、それぞれの役割を遂行し、山車の円滑な引き廻しを行います。若者頭は山車引きの責任者であり、若衆や子供たちの憧れの的です。また、他町との山車のすれ違いや、運行の交渉役として、先鋒という役があります。先鋒は若者頭から権限を委譲されており、町内を代表して交渉事にあたる重要な役割を担います。以前若者頭など主だった役は地元在住、もしくはその出身者に限られていましたが、現在では他所からの参加者でも努力し、貢献が認められれば、その任につける町内が多いようです。



本町の山車

若者連名称:本町和会

下座連・お囃子方の名称:江戸里神楽4世萩原彦太郎社中

額の文字:勇武(成田山中興第15世石川照勤大僧正御直筆)

人形の名称:藤原秀郷

明治35年製作された江戸山車で、村田政親・百雲正山本鉄之に依頼し、車輪・台座は神田紺谷町の川口家の製作です。人形は将門討伐や大ムカデ退治で有名な藤原秀郷(倭藤太)で製作は山本福松。山車は上中下三段構造の上段迫り上がり式で町内が狭いため、上中段が360度回転するのが特徴です。平成12年には車輪を新調しています。お囃子は新宿区無形文化財の萩原彦太郎社中による江戸囃子です。



仲之町の山車

若者連名称:仲之町睦会

下座連・お囃子方の名称:如月会

額の文字:妍哉得國(成田山中興第15世石川照勤大僧正御直筆)

人形の名称:神武天皇

明治33年、東京神田にて製作された成田最古の華麗な江戸型山車です。作者は村田政親と百雲正山本鉄之による共作です。人形は「神武天皇」。作者は初代山本福松によるものです。正面の額は、成田山中興第15世石川照勤大僧正によるもので「妍哉得國」です。



花崎町の山車

若者連名称:花若連

下座連・お囃子方の名称:花崎囃子連

額の文字:智勇(成田山中興第21世橋本照稔大僧正御直筆)

人形の名称:八幡太郎義家

昭和51年の作、江戸型の山車で前部は囃子台に唐破風の屋根、後部は三層からなる銚で最上部はせり上がり式になっている。山車には昇龍や牡丹、腰廻りには波に鯉、懸魚は鳳凰、さらに下高欄下には八幡太郎の説話三題の彫刻が施され、重量感のある造りです。人形は、平安時代の武将、武勇の誉れ高い源氏の棟梁八幡太郎義家。



圀護台三和会の山車

若者連名称:圀護台三和会若者連

下座連・お囃子方の名称:圀護台下座連

額の文字:「法王」(成田山中興第21世橋本照稔大僧正御直筆)

人形の名称:嵯峨天皇

圀護台三和会は圀護台・新町・馬橋の三区で構成され、現在の山車は成田山開基1070年に合わせて区民の親睦と融和を願い新造されました。製作は印西市の棟梁正木寛氏によるもので、二層式屋台の形式をとり、柱と梁を繋ぐ木組みや、上下の高欄を支える多くの斗供など、伝統的な社寺建築の技法により建造され、精微な彫刻が山車を飾ります。人形は成田山のお不動様とゆかりの深い「嵯峨天皇」で、製作は八千代市の彫刻家田島義朗氏によるものです。



成田の山車とお囃子

成田祇園祭は天下祭と呼ばれていた江戸の祭と、さらにその影響を強く受け、北総の地に花開いた佐原の祭、その2つの祭が融合し、地域の特性が加味された独特の祭と言えます。従って山車は、純然たる江戸型の山車と唐破風の大屋根の屋台、またそれらから進化した人形山車と様々な形態の山車があり、どれも可動式のかじとブレーキがついています。お囃子は江戸囃子の山車と佐原囃子の山車があり、全国的に見ても成田ならではの特徴と言えます。江戸囃子は仲之町、本町、交道会の3台で、これらは成田山門前周辺の町内であり、早くから町が開け、山車の製作時期も古く、江戸との交流が深かったためと思われます。このお囃子は江戸を中心に関東全域に広まっており、成田がこの方面の端に位置しています。その他7台の山車は、佐原囃子です。佐原囃子は千葉県無形民俗文化財に指定されており、哀調漂うメロディーから賑やかな曲まで多くの曲目があり、山車の運行状況や起伏にとんだ成田の地形にあわせて演奏されています。香取市を中心に、北総地区および茨城県の南部地域の祭で親しまれています。



上町の屋台

若者連名称:上町親和会
下座連・お囃子方の名称:鳥羽下座連
額の文字:上町(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)

江戸時代の後期に千葉町院内の宮大工によって造られた純然たる彫刻踊り屋台。平成14年に一世紀振りの大改修を行い、屋根は唐破風一層造り、屋根・柱・土台・彫刻は全て本ケヤキで、一枚彫り抜きの上町扁額をはじめ双竜・朱雀・伎芸天・唐獅子・波に十二支・青龍・白虎・玄武・力神・極楽鳥・鳳凰等々を新たに加え、迫力有る彫刻屋台となりました。上壱番町としての長い歴史を現在に伝える重厚な屋台です。



土屋の山車

若者連名称:土屋青和会
下座連・お囃子方の名称:土屋囃子連
人形の名称:大穴牟遲神(大国主神)

平成19年から二代目の山車となりました。山車は前部囃子台に唐破風の屋根、後部は三層でせり上り式の江戸型山車で、特徴は前部囃子台が長いことです。人形、彫物は古事記の神話を題材にしたもので、人形は『大穴牟遲神』彫物は懸魚に『伊弉諾尊、伊弉冉尊の国生み』、中段三方の欄間には『天照大神の天の岩戸開き』、『素戔鳴尊の八岐大蛇退治』、『天孫降臨』の彫刻を配し、神話の山車と呼ばれています。



東町の屋台

若者連名称:東栄会
下座連・お囃子方の名称:あづま下座連

昭和53年6月に完成した二代目の屋台で、正式には「引き廻し屋台」と言います。総樫造り、銅板瓦葺き、総漆塗り仕上げで、屋台正面は武家屋敷かご寄せ玄関を思わせる唐破風造りになっています。平成18年、屋台の四方に獅子、鳳凰、恵比寿大黒、昇り龍などの立派な彫刻が施され、より重厚で威厳のある屋台になりました。



令和元年度
警護当番町

幸町の山車

若者連名称:幸若連
下座連・お囃子方の名称:幸町下座連
額の文字:金剛(成田山中興第21世橋本照稔大僧正御直筆)
人形の名称:朱雀天皇

平成23年度製作の山車となります。二重高欄樫漆塗り、前面に欄間仕立ての踊り屋台があり、左右の前柱に唐獅子と中央に鳳凰と雲の金箔張り。丹精な彫りの字額「金剛」は、成田山中興第21世橋本照稔大僧正の直筆。人形は平安時代中期、平将門の乱が起きたとき、追討の軍を送った「朱雀天皇」。新勝寺建立にゆかりの人物です。



成田山の山車

若者連名称:成田山交道会若者連
下座連・お囃子方の名称:都築社中
額の文字:大日(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)
人形の名称:日本武尊

昭和63年、成田山開基1050年祭を記念し五世宮惣が5年の歳月をかけ製作した本格的江戸型山車。全体を漆で仕上げ金色の彫刻金具、極彩色の木彫り、西陣織の刺繍幕、特に腰枡の螺鈿、四君子の柱隠しの華麗さには目を見張ります。人形は川本喜八郎氏製作の日本武尊です。



